

is at 2500-2800 m which is a bit lower than the border of forest zones from evergreen oak (*Quercus semecarpifolia*) to *Rhododendron* (*Rh. arboreum* var. *campbelliae*) or conifer (*Abies spectabilis*). In Sikkim, it is at 3500-3900 m. In Bhutan, *V. biflora* comes down to 2800 m but *V. wallichiana* has not been reported. (Fig. 2).

* * * *

1969年より2年間、ネパールの首都 Kathmandu にある Department of Medicinal Plants に勤務し、同国の植物調査に協力した。当初考えていたほどには各地を歩くことができなかったが、採集の現場でできるだけ記録をとるように心がけ、多少の知見を得た。今後これらを整理しながら発表して行くことにする。

1. *Viola wallichiana* Ging.

黄色の花をつけるスマレで、山地でよく見られる。高い所に生えている *V. biflora* とよく似ているが、距が細長いことと、花弁の裏面が黄色のみで紫褐色を帯びない点を目安にすれば容易に区別できる。葉の形、毛の状態、萼片の形などは互に移り変って区別点とはなりにくい。本種は *V. biflora* より低い地域に生じ、山を上って行くとある高さで本種から急に *V. biflora* に変わるのが観察される。Fig. 2 は色々な地域のものを集めて示しており、ある所では入り混っているかのように見えるが、一つの山の一つの尾根をとると決して混生していない。また両種の境目には植生的な差異は認められない。

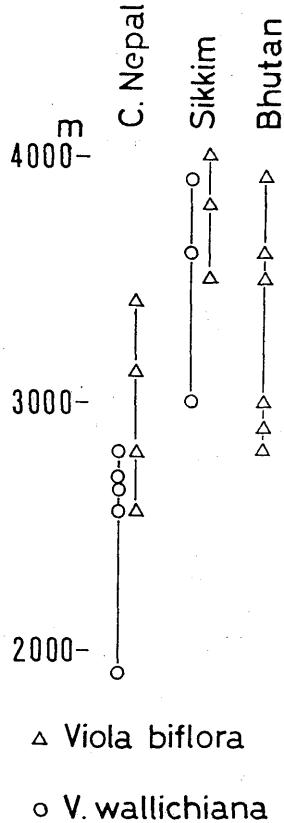


Fig. 2. Altitudinal distribution of *Viola wallichiana* and *V. biflora*.

○*Barbula prionophylla* Saito は有効名か? (水島うらら) Urara MIZUSHIMA: On the nomenclature of *Barbula prionophylla* Saito

本誌 46 巻 5 号 139-145 (1971) に収録されている齊藤亀三氏のセンボンゴケ科雑記 (1) を読み、*Barbula prionophylla* Saito という新名の有効性に疑問を感じた。こ

れは *Prionidium setschwanicum* (Broth.) Hilp. (1925) ≡ *Leptodontium setschwanicum* Broth. (1922) と呼ばれて来たものであるが、斉藤氏は *Prionidium* は属としての独立性がないとして *Barbula* に合一された。だが *Barbula* の下では *B. setschwanica* Broth. (1924) ≡ *Hydrogonium setschwanicum* (Broth.) Chen (1941) という先行名があるので、別の epithet を選ばねばならない。ここで *B. prionophylla* Saito なる新名の当否が問題となる。斉藤氏の属及び種の範囲を正当と認めるならば、*Erythrophyllum barbuloides* Herz. (1925) という有効に出版された異名があり、この barbuloides という epithet は *Barbula* の下では用いられた事がないようである。従って *Prionidium setschwanicum* (Broth.) Hilp. に対する正名は次の如くすべきである：

***Barbula barbuloides* (Herz.) U. Mizushima, comb. nov.**

Basionym: *Erythrophyllum barbuloides* Herz. in *Hedwigia* 65: 154 (1925).

Synonym: *Leptodontium setschwanicum* Broth. in *Sitzungsber. Ak. Wiss. Wien Math. Nat. Kl. Abt. 1*, 131: 211 (1922)—*Morinia setschwanica* (Broth.) Broth. in *Engl. & Pr., Nat. Pflanzenfam.* 2 Aufl. 11: 528 (1925)—*Prionidium setschwanicum* (Broth.) Hilp. in *Beih. Bot. Centralbl.* 50: 641 (1933)—*Barbula prionophylla* Saito in *Journ. Jap. Bot.* 46: 142 (1971), syn. nov.

Barbuloides という epithet はセンボンゴケ科の中では広く用いられている。本題に直接の関係はないが少し述べておきたい。*Didymodon barbuloides* Libert は J. Podpera (1954) によって *Barbula rigidula* (Hedw.) Mild. ssp. *andreaeoides* (Limpr.) Culm. (≡ *Didymodon rigidulus* Hedw. ssp. *andreaeoides* (Limpr.) Wijk et Marg.) と同一物ではないかという疑問を持たれた事もあるが、Podpera も他の人も *D. barbuloides* を *Barbula* に組みかえてはいない。又 *Hyophila barbuloides* Broth. は陳邦杰が *Trichostomum barbuloides* (Broth.) Chen の組合せを作った。だがこれには Bridel と Schimper の先行名があった。*T. barbuloides* Brid. は *Tortula barbuloides* (Brid.) Mitt. とされたこともあるが、現在では *Timmiella barbuloides* (Brid.) Moenkem. が正しい位置と考えられている。このように barbuloides なる epithet はセンボンゴケ科の諸属に於いて広く且つ込み入った歴史を持って用いられて来た。本科の研究では命名上注意して扱う必要がある。更に斉藤氏は *Leptodontium setschwanicum* Broth. を *Barbula prionophylla* の basionym としておられるが、*B. prionophylla* は新名であるから basionym はない。又論述中に *Barbula* の sect. *Eubarbula* と書いておられるが、これは現行命名規約の第 21 条 (1966) に明かなように、*Barbula* sect. *Barbula* とせねばならない。

(東京都立大学・牧野標本館)